

美作地区の里親制度を推進するためにⅢ

～美作地区里親会への支援を通じて～

1.平成 28 年度活動の目的

美作地区の里親・里子の交流行事・余暇活動支援や里親会のサポートを通して里親・里子の交流、里子の学習支援、社会的体験の場の提供を行います。この活動を通じて「地域で支える里親・里子支援」の構築を目指します。

2.はじめに

(1) 日本には社会的養護を必要とする児童が 4 万 6 千人います。

平成 28 年厚生労働省より出された資料によると、日本では虐待や育児放棄、予期しない妊娠など、何らかの理由により親子分離された児童は全国で 4 万 6 千人にのぼり、平成 25 年から約 1.2 倍増加しています。そのうち里子として里親に預けられる委託率は 16.5%です。

世界と比較するとオーストラリアでは 93.5%、アメリカでは 77%、イギリスでは 71.7%で国際的に見ると日本は最低水準となっています。「子どもにとって家庭環境での養育が重要」とする国際基準（約 7 割）からもかけ離れています。

国連総会採択決議「児童の代替的養護に関するガイドライン」では社会的養護が必要となった場合、最善の委託先は親族とし、それが無理なら特別養子縁組、次に里親養育、最終手段は施設入所と取り決められている中、日本においては 85%が施設入所となっています。

これらの原因として里親制度の理解が進んでいないため登録件数が増えないこと、里親を支援するサポート、支援の体制が不足していることが挙げられます。

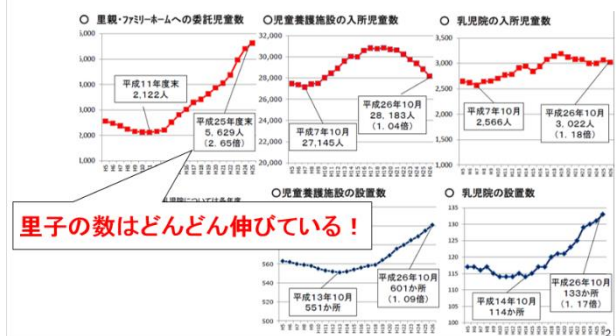


(2) 子ども一人ひとりに愛情を注ぐことができる「里親」が必要です。

社会的養護が必要な子どものうち 60%が親からの虐待を受けています。大人との関係性を形成する大切な年齢時において、一人ひとりに愛情を注ぐことができる里親制度は一般家庭と同様の生活することによって育まれる安心感を得ることができます。そして人間関係の繋がりなど、地域における社会経験を積むことができ、将来の自分の家庭を築くためのモデルともなりえます。

厚生労働省は里親委託ガイドラインを作成し、優先的に里親へ子どもたちを措置し、平成 31 年までに里子等委託率を 22%に引き上げる目標を立てています。

里親を必要とする子どもたちが増えている！



(3) そのためには民間の里親支援機関が必要。

美作地区では、広い圏域に登録里親が点在しており、自然環境の良い中で里子を育てています。津山児童相談所、施設の里親支援相談専門員などによる里親・里子の支援が行われていますが、NPO等の民間の里親支援機関がなく、インフォーマルな支援が不足しています。また、美作地区里親会では「里親数が近年減少傾向である」「里親会の行事を行うことが負担となっている」「里親のリクルートができていない」といった課題があります。


3.里親・里子への支援内容について



里親・里子の交流を目的としたサロン活動の企画運営補助、事務局の発送事務の手伝い、里親・里子交流キャンプの実施、里親大会への参加と運営補助等の活動を行いました。月に2回程度里子さんを預かり、学生と一緒に活動する「ウキワクフレンド」では、学生と共に社会体験を促進すると共に話し合ったり、学習支援、レクリエーション、スポーツ活動等を行いました。

また、毎年一般市民を対象とし、研修会「親と子のコミュニケーション」～怒らず子どものやる気を引き出す～（子育て研修会・里親・里子サポーター養成講座）を開催し、「子育て」を通して里親の啓発と里親・里子支援サークル活動への理解を進めました。

本年度の特色は、これまでロータリークラブからの助成金でまかなってきた予算を、公益財団みんつくの割り勘事業で集めたことです。これまでは用意された予算の中で活動を計画してきましたが、どうしても自由度が少なく、計画された行事を消化しているという考えになりがちでした。そのため、自分達で予算を調達して、責任を持ってより有効的に活動に取り組めるよう募金事業を実施しました。

(1) 活動の内容

	事業名	日時・場所・内容等	人数
1	第53回中国地区里親大会	平成28年5月28日(土) 鳥取県米子市 これまでの実績を評価していただき、里親支援者として表彰され感謝状をいただきました。	学生9名 
2	第1回どうしょん会 (里親交流事業)	平成28年6月26日(日) 美作大学 学生が里子の託児を行なうことにより、里親同士で児童福祉司や里親支援専門相談員を交えて話をする機会を提供しました。	里親12名 里子7名 学生17名 計36名
3	里親・里子交流キャンプ	平成28年8月20日(土)～21日(日) 久米南美しい森キャンプ場 岡山県久米郡久米南町 自然の中で、里親・里子、学生が交流することを目的に、1泊2日のキャンプを行いました。	里親9名 里子7名 学生14名 計30名

		<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ○廃校でのミニ運動会 ○バーベキュー ○レク大会 ○里親と学生との交流会 ○飯ごう炊飯 <p>テントを張っての宿泊で、明かりにクワガタムシが飛んできたり、早朝からカブトムシを取ったりしてより自然を身近に感じることができました。</p>	
4	平成 28 年度岡山県里親会総会（託児）	<p>平成 28 年 10 月 22 日(土)</p> <p>サントピア岡山 岡山県総社市</p> <p>岡山県里親会に協力し、総会参加者の里子を託児し、会のスムーズな進行をたすけました。</p>	里親 19 組 里子 27 名 学生 9 名
5	里親・里子交流日帰り旅行	<p>平成 28 年 11 月 5 日(土)</p> <p>おかやまファーマーズ・マーケット ノースヴィレッジ 岡山県勝田郡勝央町</p> <p>農業公園でアイスクリーム作りや乗馬体験などを行ないながら、交流を行ないました。また、里親だけで話し合う時間も作りました。</p>	<p>里親 7 名 里子 9 名 学生 17 名 計 35 名</p> 
6	第 2 回 どうしょん会（里親交流事業）	<p>平成 28 年 11 月 27 日(日)</p> <p>美作大学（第 1 回と同様）</p> <p>大学教員による「発達障がいを持つ子どもの子育て」の研修を行ないました。</p>	里親 8 名 里子 7 名 学生 14 名 計 29 名
7	公益財団法人みんなでつくる財団割り勘事業シェア会議	<p>平成 29 年 1 月 19 日(木)</p> <p>美作大学</p> <p>関係団体の方などに集まっていたき、事業の趣旨を説明して募金活動への協力をお願いしました。</p>	参加者 42 名（学生 10 名）
8	里母会（里母交流事業）	<p>平成 29 年 2 月 18 日(土)</p> <p>美作大学</p> <p>日常的に里子の子育てを担う事の多い、里母同士の交流の機会を提</p>	里母 7 名 里子 2 名 学生 10 名 計 19 名

		供しました。	
9	里親サポーター養成講座	平成 29 年 2 月 19 日(日) 美作大学	子ども 7 名 学生 10 名 参加者 18 名
1 0	公益財団法人みんなでつくる財団割り勘事業（募金活動）	平成 28 年 10 月～平成 29 年 2 月 岡山県（特に美作地区）を対象として、日本財団のHP「CANPAN」や「おかやまシェア・ウェブ」にサークルの活動を掲載し、クラウドファンディングを行ないました。それとともに、みんなつくる財団の指導の下、パンフレットを作成し、関係団体や企業を訪問し、募金活動への協力と里親制度の啓発活動を行ないました。	寄付者 160 名程度 約 45 万（必要経費を除いた額）をいただきました。寄付者の中には、九州、関東、関西の方もいました。
1 1	ウキワクフレンド	毎月第 2 第 4 日曜日に開催 美作大学 この活動は、これまでの成長過程のなかでの体験不足を補い、自己肯定感を高める事を目的として行いました。また、子育てに疲れた里親が、ほっと息を抜く事ができる場所（レスパイトケア）として捉え、里子さんだけの単独参加を原則として活動に取り組みました。	里子の定員 5 名 延べ利用人数 63 名 

(2) 活動の成果

- ①これまでの活動が認められ、中国地区里親大会で表彰されました。
- ②里親サロンの計画と定期的な実施を学生が行うことによって、里親の負担が軽減されました。
- ③里親の交流場場所と機会を、行事や大学を利用して提供する事ができました。
- ④数は少ないながら、大学の設備と人的資源を利用して里親研修の機会を提供しました。
- ⑤人数は限られていましたが、年間 20 回のウキワクフレンドを開催し、里親のレスパイトに寄与しました。また、里子にとっては、里親以外の大人（学生）とともに社会体験や学習支援を受ける事ができました。
- ⑥岡山県の里親会の総会を始め、里子の託児事業に積極的に協力しました。
- ⑦募金活動や行事を地域で行なう事により、里親制度に対する地域住民の理解を進めました。
- ⑧里親・里子交流行事の予算を、学生自らが募金活動を行なう事により確保する事ができました。

4. 今後に向けて

- (1) この活動を多くの方に知っていただき、
地域で支える里親・里子支援を行いたい。

美作地区の里親会を支援することにより、この活動を多くの方に知っていただくとともに、里親の啓発を行い、登録里

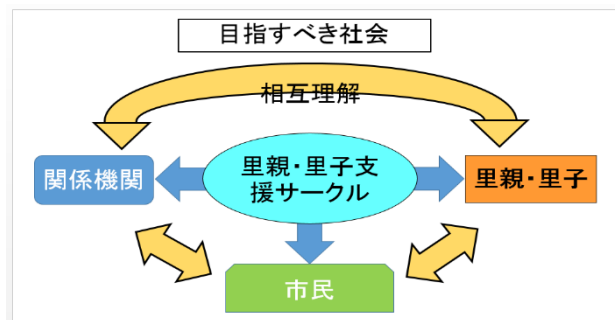


親の増加を支援したいと考えています。さらに、「里親・里子をサポートできる地域の創造」「里親・里子サポーターの養成」を目指します。

また、里親・里子支援サークルがモデルとなり活動を継続していく事により、里親・里子への関心が誘発され、学生や市民の「里親支援機関」が各地に増え、里親支援専門相談員を始めとする多種多様な人や団体による支援の輪が広がり、里親・里子が暮らしやすい社会になる事を目指しています。

(2) 里親支援のネットワークを構築し、里親・里子が暮らしやすい社会実現を目指す。

市民・専門職・児童施設・里親会や大学、そして市民団体の方々とのネットワークを構築し、月1回里親・里子サポーター会議を開催し、情報交換を進めていきます。またこのネットワークの中には社会人の参加を促し、支援の量・幅・質を向上させます。里親・里子支援を行い、里親・里子同士の交流を促進することにより、絆を強め、お互いが相談できる環境を醸成すると共に、研修講座を開催し、サポート、支援の充実を図ります。そして、市民向けのサポーター養成講座を開催し、地域の方々に里親・里子への理解を深めていただくと共に、広く支援を呼びかけます。



事業実施後の目標

- ①里親・里子の生活上の困り感を少なくする。
- ②美作地域に里親支援のネットワークを作り、学生だけでなく社会人にも参加を求め、支援の量・幅・質を向上させる。
- ③里親・里子同士の交流を促進する事によって絆を強め、お互いが相談できる環境を醸成する。
- ④里親向けの研修講座を開く事によって、養育能力を高める。
- ⑤市民向けのサポーター養成講座を開催し、里親に対する理解と支援を呼びかける。